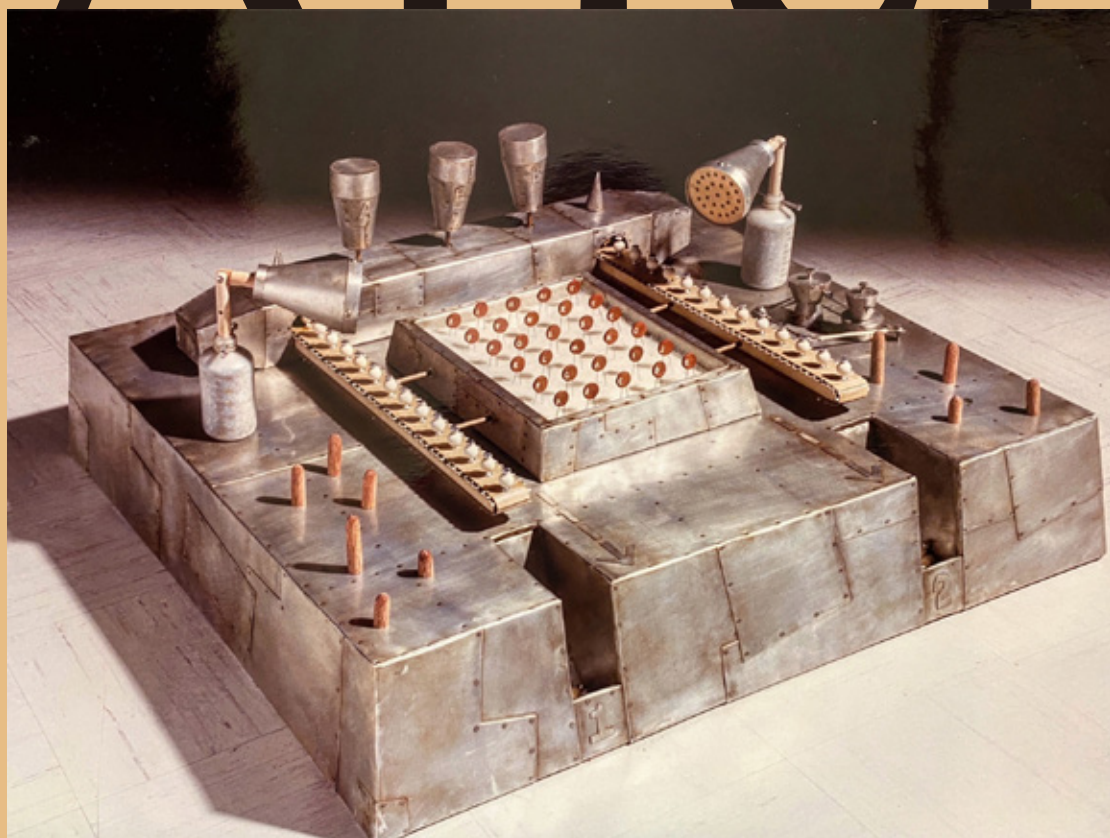


第60回豊田市民美術展 記念展

2022年12月14日(水) — 25日(日)

開館時間 午前10時〜午後5時30分 ※休館日 12月19日(月)



# Prize

## I 〈歴史〉

絵画

丹羽皓夫

丹羽隆夫

篠田(安田)有里

梅村愛

植田浩

彫刻・インスタレーション

石川豊

加藤万也(マンヤ)

鈴木琢磨

成田帆花

星野夏実

阿部多為

水尻愛

## 豊田の美術

工芸

石上久美子

書

安藤豊邨

加藤矢舟

写真

市川喜久雄

## II 〈After Prize〉

梶千春 [立体]

新實広記 [立体]

光富さよ [立体]

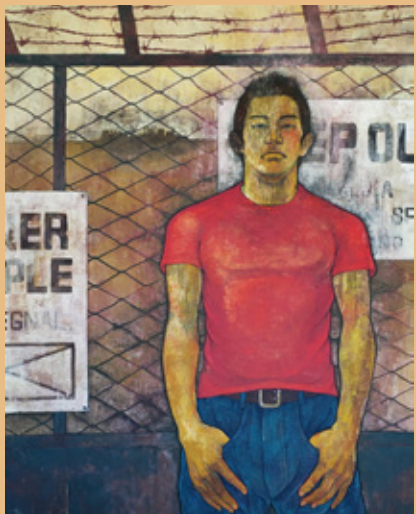
杉山タカ子 [工芸]

安藤尤京 [書]

2022.12.14 wed — 25 sun

豊田市美術館ギャラリー

2



3



4



5



6

豊田の美術

今年、2022年に豊田市民美術展は60回を迎えます。1963(昭和38)年に第1回展が開催されて以来毎年開催され、継続的な市の文化事業としては最も歴史があるものの一つで、また一番身近な発表の場としてあり続けてきました。そこで今一度、市民美術展を振り返りつつ、豊田の美術を考える記念展を開催します。

本展では近年台頭してきた高校・大学生など若手の作品をはじめ過去60年をさかのぼり、市民美術展を基軸にしながらも、その前史や地元の発表の場の多様化も含めながら、半世紀以上の近現代の豊田における地域美術の一端を当時の資料、映像なども含め、市長賞を始めとした受賞作品等によって概観します。

また、現在活躍中の作家の初期の市民美術展受賞作(あるいは当時の作品)から新作までの変遷を展示し、作家の受賞後の展開を示します。

ささやかながら、豊田における近過去に関するローカルアート歴史の試みとして、この場をキャストボードにして巣立っていった若い感性の軌跡を追うことで、今後の市民の美術活動の刺激・推進の契機としたいと思います。

- 1 梶千春《無題》1997
- 2 篠田(安田)有里  
《DEAD END - 最果ての時-》1998
- 3 丹羽隆夫《Red Christ-mas》1993
- 4 新實広記《Vessel》(参考図版)
- 5 安藤豊都《真而静》1976頃
- 6 水尻愛《ふく》2021

## 2022.12.14 wed — 25 sun

会期：2022年12月14日(水) — 25日(日) 会場：豊田市美術館ギャラリー  
開館時間 午前10時～午後5時30分 ※休館日 12月19日(月)

### 関連企画

#### ・シンポジウム「表現としての豊田」

—— 様々なジャンルで広く活躍する豊田の異なる世代の作家がどのような表現の場を作ってきたのか？

日程：12月17日(土) 午後2時～午後4時

会場：豊田市美術館講堂

パネラー：山本富章、新實広記、阿部多為、天野一夫(司会)

#### ・出品作家によるギャラリートーク

日程：12月24日(土) 午後2時～午後3時30分

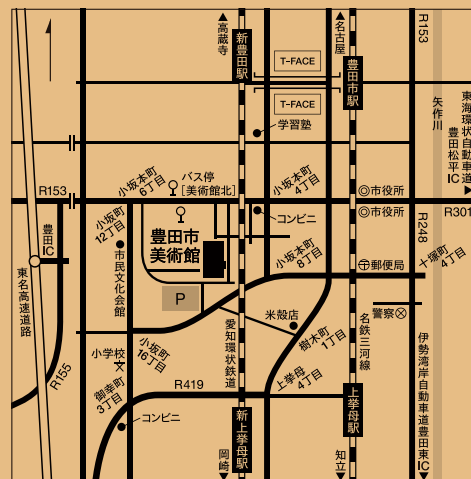
会場：豊田市美術館ギャラリー

### 第60回公募展

豊田市民文化会館展示室 A・B

令和4年12月4日(日)～18日(日)

※月曜休館



[名鉄三河線豊田市駅・愛知環状鉄道新豊田駅より] 徒歩15分  
[名鉄三河線上挙母駅・愛知環状鉄道新上挙母駅より] 徒歩20分  
[お車ご利用の場合] 東名高速道路豊田ICより約15分  
東海環状自動車道豊田松平ICより約15分  
伊勢湾岸自動車道豊田東ICより約20分